

2020年2月21日現在

書籍をご購入いただいた皆様へ

大原出版株式会社

【正誤表】

農業経理士教科書【経営管理編】

平素よりご愛顧いただき誠にありがとうございます。

誠に申し訳ございませんが、本書の記載内容に訂正がございます。

ご購入いただいたみなさまには大変ご迷惑をおかけいたしますが、下記該当書籍及び訂正内容をご確認のうえ、ご使用いただきますようお願い申し上げます。

該当書籍

農業経理士教科書【経営管理編】（平成29年7月10日 初版発行）
（平成30年7月1日 初版2刷発行）

ISBN 978-4-86486-463-3

訂正内容

訂正頁・行	訂正箇所
4頁（e） 農業の特徴 上から2行目及び 上から5行目	「経営 <u>安定</u> 積立金」→「経営 <u>保険</u> 積立金」
4頁（e） 農業の特徴 上から3行目	「農業会計指針」第二貸借対照表 I 資産 <u>4</u> .（1）～（4） ↓ <u>5</u>

<p>4頁 (e) 農業の特徴 上から5行目</p>	<p>「農業会計指針」第二貸借対照表 I 資産 <u>7.</u> (1) ~ (2) ↓ 8</p>
<p>6頁 (e) 農業の特徴 上から4行目及び 上から9行目</p>	<p>「経営<u>安定</u>積立金」 → 「経営<u>保険</u>積立金」</p>
<p>6頁 (e) 農業の特徴 上から6行目</p>	<p>「農業会計指針」第二貸借対照表 I 資産 <u>4.</u> (5) ↓ 5</p>
<p>6頁 (e) 農業の特徴 上から10行目</p>	<p>「農業会計指針」第二貸借対照表 I 資産 <u>7.</u> (3) ↓ 8</p>
<p>7頁 損益計算書様式内 下から2行目</p>	<p>法人税等 → <u>法人税、住民税及び事業税</u></p>

<p>7頁 c) 製造原価報告書 (a) 製造原価報告書の意義・役割 上から2行目</p>	<p>附属明細表→附属資料</p>
<p>8頁 ・耕種農業 の説明文1行目</p>	<p>支払小作料→農地賃借料</p>
<p>16頁 b) 青色申告決算書の修正が必要な場合 (参考) 1行目</p>	<p>財産状況→財政状態</p>
<p>18頁 上から10行目</p>	<p>「経営安定積立金」 → 「経営保険積立金」</p>
<p>18頁 上から12行目</p>	<p>特別利益の「固定資産売却損」へ組み替えます。 ↓ 損失</p>

<p>20頁中段 ・農具費の説明文</p>	<p>製造原価の製造経費の「農業費」へ組み替えます。 ↓ 「農具費」</p>
<p>20頁中段 ・農薬衛生費の説明文</p>	<p>製造原価の材料費の「<u>農薬衛生費</u>」へ組み替えます。 ↓ 「農薬費」</p>
<p>21頁中段 ・雇人費の説明文 2行目</p>	<p>まとめて製造原価の労務費に「<u>雇人費</u>」 ↓ 「賃金手当」</p>
<p>21頁中段 ・雇人費の説明文 6行目</p>	<p>まとめて販売費及び一般管理費に「<u>雇人費</u>」 ↓ 「給料手当」</p>
<p>21頁下段 ・地代・賃借料の説明文1行目</p>	<p>地代・賃借料の内容ごとに、<u>以下のように</u>組み替えを行います、… →<u>下線部分を削除</u></p>

<p>29頁 ⑤生産単位当たり 農業固定資産額 の説明文</p>	<p>(説明文全文を下記に変更) 一定の生産単位 (10a、1頭など) 当たりの農業用固定資産額の割合を示す指標であり、値が大きいほど、単位当たりの面積や頭数から見た施設や機械等の固定資産の価値が高く、過剰投資となっている可能性が高いことを示しています。</p>
<p>29頁 ⑦労働生産性 タイトル変更</p>	<p>労働生産性→人時売上高</p>
<p>30頁 ①売上高成長率の 算式 (タイトル) の変更</p>	<p>(算式を下記に変更) $(\text{評価年の売上高} - \text{基準年の売上高}) / \text{基準年の売上高} \times 100$</p>
<p>30頁 ①売上高成長率の 説明文</p>	<p>売上高成長率は、<u>評価年の売上高の基準年の売上高</u>に対する比率であり、市場における成功・失敗を直接に示し、企業の総合的な努力を反映する比率です。 ↓ (下線部を次の文言に変更) 評価年の売上高が基準年の売上高に比べてどれだけ増加したかを見る指標であり、</p>
<p>30頁 ②付加価値成長率 の算式</p>	<p>(算式を下記に変更) $(\text{評価年の付加価値額} - \text{基準年の付加価値額}) / \text{評価年の付加価値額} \times 100$</p>

<p>30頁 ②付加価値成長率 の説明文</p>	<p>付加価値成長率は、<u>評価年の付加価値の基準年の付加価値に対する比率</u>です。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>(下線部を次の文言に変更)</p> <p>評価年の付加価値額が基準年の付加価値額に比べてどれだけ増加したかを見る指標</p>
<p>34頁 c) 固定費と固定 的支出 (計算例) 2行目</p>	<p style="text-align: center;">期末長期借入金<u>12, 00, 000円</u> → 期末長期借入金12, 000, 000円</p>
<p>34頁下段② 債務償還年数 1行目</p>	<p>債務償還年数は、<u>有利</u>利子負債の返済にかかる…</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">削除</p>
<p>35頁③借入依存 度タイトル、1行目 、3行目の式、6行 目</p>	<p style="text-align: center;">「借入依存度」 → 「借入金依存度」</p>
<p>36頁中段枠内 営業キャッシュ・ フローの計算式</p>	<p>経常利益+減価償却費-法人税等+売上債権の減少+ <u>買入債務</u>の増加+棚卸資産の減少</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">仕入債務</p>

<p>39頁 ③外部購入費用の区分の説明文 2～3行目</p>	<p>「賃借料」「支払地代」「減価償却費」を削除</p>
<p>41頁中段 ②利益増減分析の算式 上から3行目</p>	<p>売上高の増減額が数量差異部分と価格差異部分に分解… ↓ 売上高の増減額が数量差異額部分と価格差異額部分に分解…</p>
<p>41頁下段 ③数量差異のさらなる分析 上から1行目及び下の図</p>	<p>「数量差異額」 → 「数量差異」</p>
<p>63頁下段 ②価格低下リスク 2行目</p>	<p>「リスクマネジメント」 → 「リスクファイナンス」</p>
<p>64頁中段 c) 販売方法の多様化 上から3行目</p>	<p>「栽培契約」 → 「契約栽培」</p>

<p>64頁下段 e) 価格安定制度への加入 8行目</p>	<p>肉用牛肥育経営安定特別対策事業 (牛マルキン) →肉用牛肥育経営安定交付金制度 (牛マルキン)</p> <p>養豚経営安定対策事業 (豚マルキン) →肉豚経営安定交付金制度 (豚マルキン)</p>
<p>64頁下段 e) 価格安定制度への加入 9行目</p>	<p>肉用牛繁殖経営支援事業 → 削除 (廃止されたため)</p>
<p>65頁上段 f) 収入影響緩和対策への加入 2行目</p>	<p>「品目横断の経営所得安定対策制度に加入すること…」 → 「米・畑作物の収入減少影響緩和交付金制度 (ナラシ対策) に加入すること…」</p>
<p>65頁 ③賠償責任リスク 2行目</p>	<p>「リスクマネジメント」 → 「リスクファイナンス」</p>
<p>66頁 ④人的リスク 2行目</p>	<p>「リスクマネジメント」 → 「リスクファイナンス」</p>

<p>66頁～71頁 (2) 収入保険</p>	<p>収入保険制度については、制度が始まる前の内容による記述となっており、制度の改正内容を踏まえた改訂が予定されていることにご留意ください。</p>
<p>83頁 下から6行目</p>	<p>「ことは可能な状態にあると推測。」 → すべて削除</p>
<p>88頁中段 損益計画表 の事例1 材料費①の現状</p>	<p>「7.785」 → 「7,785」</p>
<p>92頁中段 b) 農林漁業成長 産業化支援機構 A-Five 上から6行目</p>	<p>「つまり、このしくみは、農業者のみでの6次産業化には活用できません。他産業のパートナー企業と組む場合にのみ活用できるものです。他産業のノウハウを生かした6次産業化を支援する仕組みになっています。」 → 「この仕組みは、他産業のノウハウを生かした6次産業化を支援することを目的としていたため、当初は、農業者のみでの6次産業化には活用できませんでしたが、平成29年の支援基準改正により、農業法人の6次産業化への直接出資が可能となりました。しかしながら、過去の投資実績等を踏まえ、令和元年12月20日現在、新規相談の受付を行っていません。」</p>

<p>96頁 収入予算書の例</p>	<p>1行目米（主食用）期待収穫量 121,000 → 207,000 予算額 29,645,000 → 50,715,000 6行目大豆（交付金対象） 予算額1,430,000 → 1,650,000</p>
<p>97頁 f) 数量払見込 2行目</p>	<p>交付対象見込数量（作付予定面積×見込単修=… ↓ 単収</p>
<p>103頁 CF：月次資金繰り 表のタイトル</p>	<p>月次資金繰り表 → 年次資金繰り表</p>
<p>111頁 上から9行目</p>	<p>「新たな農業部門の開始（従来取り扱っていない作目、品種への進出）」 ↓ 「・新たな農業部門の開始（従来取り扱っていない作目、品種への進出）」 （これも要件の一つのため）</p>
<p>113頁、114頁 ④農林漁業成長産業化支援機構A-Fiveによる出資</p>	<p>すべて削除してください。（図を含め）</p>